

## タブレットで脳トレに挑戦!

### かくたカフェ (in 農村環境改善センター)

「だれもが自由楽しめるたまり場」をテーマに、毎週角田地区の皆さんが中心に集まり、会話を楽しんだり、健康活動などを行っています。カフェでは定期的にタブレットを使い、脳トレゲームなど様々な使い方を体験しており、盛り上がりを見せる交流の機会になっています。



脳トレゲーム「もぐらたたき」大人気です。



便利さに驚きです!



## 覚えること、会える嬉しさ

### つぎたてカフェ (in 遊歩道の駅つぎたて)

南部地区の皆さんが交流するカフェでは「スマホを学びたい」という声があり、現在スマホ教室を月1回開催中。1度で覚えられないという声はほとんどですが「月1回集まって話す場としてよい機会です」という声も多く、教室で学ぶ時間が地域の交流の場になっています。



二次元コードを読み込んでホームページへ



分からないことはみんなで考えます



地域の皆さんのサポートを  
町社会福祉協議会では、スマホやタブレットの使い方に関するサポートを行っています。これまでもスマホ教室やタブレットの体験講座を開催しており、皆さんからの反響も大きく、地域の集まりなどの取り組みに繋がっています。  
スマホやタブレットは一人で楽しむものという印象を抱きがちですが、仲間同士でゲームをしたり、教え合ったりと交流するツールになっています。  
また、一人で操作して、難しくて悩むという声もよく聞かれます。実際に相談を受ける内容は「メッセージの送り方」「カメラ機能の使い方」「電話以外の活用方法」などさまざまですが、一緒に繰り返し操作しながら活用できるようにサポートできればと思います。



町社会福祉協議会  
つぎのわ じゆんしょう  
月輪 淳紹 係長

つながり、つながる

デジタル社会へみんな一緒に



近年、世代問わずスマートフォン(以下、スマホ)やタブレットなどのデジタル端末を使う機会が急激に増加しており、私たちの生活に、より身近なものとなっています。一方、急速なデジタル社会への変化に伴い、総務省ではインターネットやパソコンなどを利用できる者と利用できない者との間の格差(デジタルバイド)が生じることを現代の課題として定義しています。  
そのような中、町内では高齢者を中心に、自主的に学びを深め、デジタル端末を活用しようとする活動が行われています。今回は、各地域活動にスポットを当て、活動目的や参加者の声、そして今後のデジタル社会に向けた取り組みについて紹介します。





わくわくシニアくりねっと  
磯野 武司 さん (85 歳)

■わくわくシニアくりねっと

平成 14 年結成のパソコンサークル。みんなで楽しく「ワイワイガヤガヤ」をテーマに、毎週金曜日に 8 人で活動している。

【※ 1】IT 革命・・・1990 年代後半のパソコンやインターネット、携帯電話などの急激な普及やそれに伴う経済や社会、生活の変革を指す

【※ 2】LINE・・・通話やチャットなどのやり取りができる無料アプリ

パソコンから始まった繋がり  
「楽しい日々を過ごしています」

町民サークル「わくわくシニアくりねっと」

20 年ほど前、町主催のパソコン教室を受講し、参加者同士で「もう少し続けたらいいね」という声が上がりがり、サークルを結成しました。当時は「IT 革命」の時期で、慣れない用語や横文字に苦労したものです。活動では、パソコンでカレンダーや年賀状を作ったり、みんなで新聞を発行したりと、最近ではスマホも勉強中で、会員への連絡は LINE を使っています。

の次、本当は仲間たちと定期的に集まっておしゃべりできることが、一番の楽しみです。週に 1 回集まること 7 割とデジタルが 3 割といったところででしょうか(笑)。一緒に旅行に行ったりなど本当に楽しい日々を過ごしてきました。最近、コロナ禍で一時参加できなかった一人の会員が戻ってきました。パソコンがきっかけで生まれた繋がり、今後もみんなで元気に続けていきたいです。



世代間交流のきっかけとして  
「若い人からパワーをもらっています」

栗山町老人クラブ連合会「タブレット体験講座」

スマホは、普段から電話やメール、LINE を使って家族や友人との簡単なやり取りがほとんどですが、最近では買い物時のバーコード決済や、家で料理に関する動画を見たりなど、家族に教えてもらいながら、何とか使っています。昨年、老人クラブ連合会の事業の一環で、タブレット講座に参加しました。純粋にタブレットを学びたい気持ちはありましたが、一番は若い介護福祉学生の方

たちと、たくさんお話がしたいという想いで申込みました。講座では一緒に脳トレのゲームをしたり、分からない操作を教えてもらったりと、大変優しくしていただき楽しかったです。デジタル端末は家族や友人とのやり取りやゲームなどを一緒に楽しめること以外に、学生さんとの交流にも活用できるものであると感じました。今年もぜひ参加したいです。



栗山町老人クラブ連合会  
田中 君代 さん (79 歳)



参加するまで不安もありましたが、タブレットを使って一緒にゲームができてとても楽しかったです。

須藤さん (令和 4 年度卒業)



スマホ時代の私たちができること。地域の方と交流ができて楽しかったですし、私たちの学びにもなりました。

依田さん (令和 4 年度卒業)

CHECK  
60 歳以上でも  
スマホ使用者増

総務省の「令和 3 年版情報通信白書」によると、携帯電話やスマホなどの世帯別端末保有率は 9 割を超え、特にスマホの普及が顕著で、8 割以上の世帯で保有しています(図 1)。

また、インターネット利用端末としても、スマホは 68・3% と、パソコンやタブレットと比べて最も高いことが分かります(図 2)。利用率は年齢が低いほど高い傾向にあるものの、ガラケーのサービス提供が終息に向かっていることもあり、60 歳以上であっても 8 割以上がスマホを利用して

いる結果となっています(図 3)。



【※ 3】ガラケー・・・写真右のボタン付きの折りたたみ型携帯電話を指す俗称

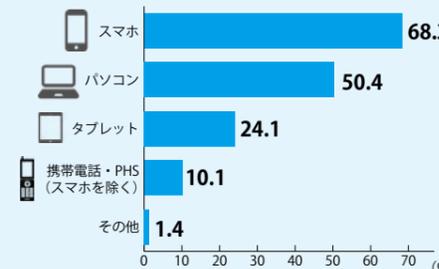
スマホの年齢別利用状況 (図 3)



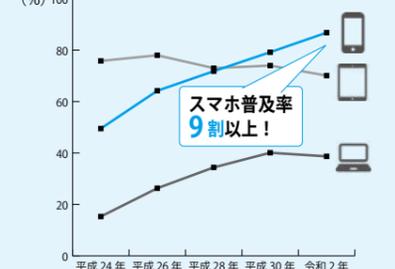
60 歳以上の利用者は 8 割を超えている

総務省「令和 3 年度版情報通信白書」より作成

インターネット利用端末の種類 (図 2)



デジタル端末保有率の推移 (図 1)



笑顔という日常の「彩り」  
デジタルを用いた活動を通じて

取材を通して、町民皆さんのデジタルを用いた活動は「地域交流」「健康づくり」「世代間交流」などが一番の目的との声がほとんどでした。今回の事例は活動の一部ではありますが、デジタルの活用は「生活を豊かにするための手段」との意識の強さが伺えました。

また、一人で楽しむ使用方に限らず、仲間と楽しむ、世代を超えて和気あいあいと楽しめる、そんな生きがいづくりや地域コミュニティの活性化にもデジタルの役割があると感じました。もちろん、デジタル端末を使うことは、個人の選択であるため、それらを持たないという選択も一つだけと言えます。

町ではデジタル化推進担当部署「DX・行革推進グループ」を新設しました。デジタルバイド対策の一つとして、今後スマホ教室

の開催や相談の機会なども予定しており、町民皆さんの身近なお困りごと、デジタルへの抵抗感などを解消するお手伝いをさせていただきます。今回取材した方々のように、日常生活に彩りを加え、素敵な笑顔を生むことができる、そんなきっかけにつながると思います。

【問い合わせ】  
町総務課  
DX・行革推進グループ  
☎ 7519

なんでも聞いてくださいね



担当職員 (左から) 仲野主事、南主事、長澤主幹